

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500098		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホームあゆむ		
所在地	大阪府池田市室町7番7号		
自己評価作成日	令和元年5月23日	評価結果市町村受理日	令和元年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiryosyoCd=2792500098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあゆむでは季節の行事や誕生日会を大切にしています。年に1度の温泉旅行はスタッフと温泉に入り、宴会やゲームなどとても楽しみにされています。施設の1階には 保育園があり 保育園のイベントも参加しみなさん いきいきとした笑顔になられます。グループホーム自由時館とも交流があり、お茶を飲みに行ったり、バーベキューなど行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は1階に保育園を併設した2階に位置し、階下では常に園児の声が聞こえ、笑顔になれる環境が自然にあり、理念を基に利用者職員が常に笑顔であることを意識し、職員が利用者寄り添い利用者の出来ることに注目し、新聞取りや調理、洗濯たみ等を一緒に行っています。運営推進会議では事故報告に関して原因、経過、対策など丁寧に説明することで家族や参加者からより安心できるとの意見を心得ており、安心安全に努めながらも利用者の思いを優先して支援しています。「利用者も職員も一緒に」をスタンスに献立から買い物、下準備や調理、片付けなど一緒に行い、食事も会話を楽しみながら一緒に摂っています。一緒に市役所へ出向いたり、買い物、一泊旅行が出来ることが利用者の笑顔に繋がり、自立した生活の支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人スタッフに説明を行いスタッフがいつでも見える場所に掲示している。	法人の企業理念を事業所の理念とし、フロアや職員の各ロッカーに掲示して意識付けを図っています。職員の入職時には理念について丁寧に伝え、スタッフ会議や申し送りの際にも確認をしています。理念を基に、利用者も職員も笑顔で過ごせるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り地域のイベントに声を掛けて頂き参加させて頂いている	自治会に加入し回覧板等で情報を得て、神社への初詣や夏祭り、花火大会などに参加しています。併設の保育園とは日々交流し、プールの日は見学に下りたり、雨の日は園児と共に過ごしています。近隣の中学生の体験学習を受け入れたり、職員がキャラバンメイトとなり、中学校に講師として出向く事もあります。今年度はドッグセラピーを試みて利用者の笑顔にも繋がり、今後も継続を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフがキャラバンメイトとなり地域での認知症サポーター養成講座を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い意見交換や助言を頂いたり、行事やイベントの予定等を報告しています。	2ヶ月毎に利用者や家族代表、神社宮司、民生委員、市職員等の参加を得て運営推進会議を開催しています。会議では事業所の活動報告や事故報告を行う他、災害時の対応についてなど話し合っています。秋に開催予定の納涼祭りを提案した際には、アイデアや助言を受ける等、多くの意見をサービス向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談しやすい環境で分からないことなどは、相談しアドバイスをもらう。	市の担当者の運営推進会議への参加もあり、議事録や相談事があるたびに利用者と共に訪問してアドバイスを受けています。市が主催しているグループホーム連絡会に参加して意見交換したり、ボランティアや研修の情報提供も得ています。また2か月毎に介護相談員を受け入れる等、密に連絡を取れる関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階入り口に関してはご家族様の希望もあり危険防止の為に施錠している。身体拘束が必要な場合はご家族様に説明しています。実施にあたりスタッフも定期的にカンファレンスを行っています。	外部研修を受講した職員が事業所に持ち帰り伝達研修を行い、職員の知識向上に努めています。3ヶ月毎開催される身体拘束委員会での内容もスタッフ会議で報告しています。階下の階段に繋がる入口は危険防止の為、家族同意の基に施錠していますが、利用者の希望に沿って階下の保育園に下りたり、階段途中にあるツバメの巣を見に行くなど、職員は拘束をしない対応に努めています。	

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会を行い、各事業所に持ち帰り、社内研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学ぶ時間を作る。今後、積極的に取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を頂き説明しています。不明な所や質問などがあれば、すぐに対応できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、利用者の状況を説明させて頂き、質問や要望などお伺いしている。発言しにくい場合は、2階入り口に意見箱を設置している。	日々生活する中で利用者に献立や行きたい所、したいことを聞きその都度対応しています。家族の意見は運営推進会議の中で聞いたり、面会時には利用者の様子を伝えた後に必ず意見を聴く心がけています。家族からの意見を受けて、利用者の受診時には家族の意向に沿って職員が付き添うこともできる体制を整える等、家族の意見を大切にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフと積極的にコミュニケーションを心掛けています。	スタッフ会議はあゆむの会議と称し、欠席者の意見は事前に聞いて議題に挙げています。会議では職員一人ひとりの意見を聞き、レクリエーションなどの提案や勤務体制、物品購入等を受け法人に提案することもあります。年1回法人との個別面談も確保し、管理者が不定期に声を掛け話を聞いています。職員の親睦を深める為に、食事会をプライベートで行うなど、コミュニケーションが取りやすい関係作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境作りスタッフ同士が向上心をもち働ける環境作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を中心に研修に参加する機会を作り、会議で発表したり、現場で伝えるなど、新人スタッフの指導にもあたる。		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市内のグループホームの会で管理者、ケアマネ、リーダーが参加し、意見交換、勉強会、施設での悩みなどを話す時間など設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をじっくりかけコミュニケーションをとっています。利用者様や家族様から聞き取り信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など家族様の要望や悩み事などお聞きし、スタッフ間でも共有し家族様の要望に応えられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって何が必要なのか、スタッフ、家族様、利用者様も入り話合う機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境で、家族としてお互いが支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族様との絆を大切に、外食、外出、訪問等の協力をして頂いています。少しでも一緒に過ごして頂ける時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院やお店に行かれ、馴染みの方とお話をされる機会があります。	近所や知り合いの方が訪問した際には、職員は居室に椅子と飲み物を用意して寛いでもらっています。職員と一緒に馴染みの場所として美容院や洋服の買い物、喫茶に出かけています。時には趣味の継続として法人のデイサービスまでカラオケに出かけたり、家族と音楽鑑賞に出かけています。また家族と馴染みの寿司屋に食事に出かけたり、法事、墓参りにも行けるように支援しています。	

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用様同士、協力しあい洗濯物を畳んだり、洗い物をしたり、支え合い生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族様からの聞き取り、スタッフの気づきなど情報を集め、本人様の思いや意向の把握に努めています。	入居時に利用者、家族と面談し、生活歴や趣味などを聞き取り、関係者からも情報提供を受け、思いや意向の把握に努めています。入居後は一緒に過ごす中で気づきを介護記録に記入してカンファレンスで話し合い、利用者や家族にも確認したうえで利用者の思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時出来る限り情報を集め、スタッフ間で共有するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その都度アセスメント、カンファレンスを行い状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様、スタッフとケアマネで会議等を行い、医師、看護師とコミュニケーションをとり、意見を出し合い介護計画を作成している。	介護計画は初回は3か月で見直し、その後状態の変化がない場合は6か月毎に見直ししています。モニタリングは毎月行い、変更の際は利用者や家族と面談し希望を聞いたうえで再アセスメントしサービス担当者会議で話し合っています。必要に応じて家族や医師もサービス担当者会議に参加し、利用者本位に検討し介護計画を作成しています。介護計画は事業所独自の介護日誌と連動を図り、利用者の心身状況の把握に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙に個々の短期目標があり、その目標に向けスタッフがケアしている。病院の記録、又、申し送りノートを活用し、利用者様のケアの変更や変化などが共有できる。		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全て事業所だけで行わずご家族様にも協力して頂き決まったサービスだけではなく、その時々に関わった柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し、外出の機会を増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能な在宅医療の医師と連携をとっている。希望があれば、入居前からのかかりつけ医にかかっておられる利用者様もおられます。	契約時に、かかりつけ医の継続ができることを伝え、家族が同行し通院している利用者もいます。協力医は月2回往診があり、24時間対応可能で緊急時には医師に連絡し指示を仰いでいます。専門受診は協力医が紹介状を書き家族や職員と受診し、口頭で情報交換し、医師にも報告しています。日々の健康管理は法人の訪問看護士担当し、毎月口腔ケア指導の為の歯科の訪問受診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の在宅医療の医師、24時間体制の訪問看護師と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の情報を提供しスタッフがカンファレンスに参加している。又、電話などでも連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で出来ること出来ない事を説明している。状態が変化の中で本人、ご家族様、医師、スタッフ、ケアマネージャーでカンファレンス行う。	入居時に、急変時や終末期における医療等に関する意思確認書に記入してもらい、医療が必要な場合は事業所では看ることができない事を説明し同意を得ています。状態が変化の中で医師から家族に伝え、職員も加わって家族の意思確認した上で最善の支援方法を検討しています。事業所で家族が泊まり込み、以前の主治医の往診により看取りを経験したこともあり、職員も方針を共有し支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応は、その都度スタッフ間で話をしている。実際、全員が対応していないのが現状です。		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を等して、地域の方や市の職員とも話をしている。保育園との合同避難訓練も行っている。	消防署立ち合いのもと年1回、併設の保育園と合同避難訓練を行い、利用者や園児も参加して避難訓練しています。事業所独自でも水害や地震に備えて夜間を想定しシミュレーションしたり、避難経路の確認を行っています。運営推進会議での呼びかけ、近隣神社の応援体制も確保されています。備蓄品として水や食料など、2週間分用意しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と言う事を基本とし、不適切な言葉が出た時は、職員同士注意しあっている。施設内研修でも行っている。	年1回事業所内で接遇研修を行い、言葉かけは名字を基本とし、本人の希望や分かりやすさ等で馴染みの言い方で呼ぶ方もおり、その際は家族に同意を得ています。管理者は職員の不適切な言動を見聞きした際には、利用者は人生の先輩である事を伝え、振り返りながら説明しています。排泄時の声掛けや入浴時の同性介助など、羞恥心にも配慮し支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症もあり自己決定する事が困難な利用者様には、スタッフが表情からくみ取るようにつとめる。気を使われている利用者様には、積極的に声をかけ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様別の対応が出来ていない所もあります。まだまだ業務優先になっている様に思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行かれたり、洋服も一緒に出かけて、お好きな色や形を選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにその日のメニューが分かるように啓示してされている。利用者様が献立を決めたり、買物、調理 片付け等は、利用者様の能力に合わせ、協力して頂いている。	献立から買い物、下準備や調理、片付けなど一緒にいき、食事も会話を楽しみながら一緒に摂っています。時には利用者が献立を決める日や冷蔵庫整理の日も設け、旬の食材にもこだわり食事作りをしています。誕生日には、手作りケーキと一緒に作り、クリスマス会には、バイキング形式の食事を家族の参加も得て行っています。寿司屋や喫茶に出かけ外食することもあり、利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事は記録している。食事摂取量が減ってきた場合は、医師に相談し、高カロリーゼリーを摂取していただいています。		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。スタッフが仕上げ磨きを行う場合もある。必要がある利用者様、ご家族様から要望があれば定期的に訪問歯科に来て頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけトイレ誘導の時間を工夫し排泄パターンが分かるようにしている。自分で訴えられない方には、トイレの声掛けをしています。	排泄表よりパターンを把握し、個々のタイミングで誘導し、日中立位が取れる利用者はトイレで排泄しています。夜間は睡眠を優先し、居室でポータブルトイレを使用している利用者もいます。紙パンツにパッドの利用者にパターンに沿った誘導により布の下着に変更するなど、カンファレンスで支援方法やパットの大きさや当て方等を検討し、自立に向けた支援を行っています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食事、水分など工夫している。便秘が続く場合は、主治医に相談し下剤を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、二日が入浴される。曜日は決まっているが、体調や気分に合わせて対応している。	どの利用者も週2回は入浴出来るよう支援し、午前中を予定していますが、希望や状況に応じて回数を増やしたり、午後からの入浴も可能です。入浴拒否があった場合は、職員を交代したり時間を変更し、時には協力医に勧めてもらったりなど工夫しています。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用したり、好みのシャンプーで楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になる事が必要な方には、休んで頂いています。体調や気分にあわせても、休息して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも確認できるようにはしている。薬の変更があった場合は、口頭や申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のカラオケに行かれたり、喫茶店にスタッフと出かけたりしています。		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様にも協力してもらい、音楽会や外食など、外出している。	市役所に一緒に議事録を持参したり、食材や嗜好品の買い物、毎朝の新聞取り等、一緒に外出することが、日常の生活となっています。気候の良い時期は隣の神社へお参りに出かけています。年に一度家族も誘って温泉旅行に行ったり、初詣や花見に出かけています。家族と音楽会に出かけたり、外食を楽しむなど、日常的に外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を管理されている方はおられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解のもと、自由に電話ができる環境にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの食卓の席は、混乱を避ける為に利用者様と話し合い決めています。季節やイベントにあわせて利用者様の作品など、ご本人様のお部屋に飾る等しています。温度管理、太陽の光も利用者様にあわせて対応しています。	廊下に季節ごとの貼り絵を飾り、生花を活けることで季節感を楽しんでもらっています。強い日差しはカーテンで遮り、エアコンや24時間換気扇を利用し、快適に過ごせるよう配慮しています。リビングのテーブルや椅子の配置は利用者の関係性や職員の場所も考慮して対応するなど、常に一緒に過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにもソファを設置し、自由に過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が持って来られた家具や人形を置き、今までとなるべく同じ環境作りを工夫しています。	入居時に、馴染みの物を持ってきてもらうように伝えます。テレビ、机、ぬいぐるみ、写真、本棚など、家族の意見も取り入れて、自宅の生活と変わらない配置を心がけています。職員と一緒に掃除し、居室でテレビを視たり、新聞や本を読む利用者もいます。利用者同志が、居室で話している際には、職員がコーヒーを出すなど居心地よく過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用様の能力に合わせて自立して生活が送れるように支援し、それぞれにあわせた対応をしている。		